



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

復活節第5主日 A年 (2023年5月7日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：使徒言行録 6章1—7節

第二朗読：ペトロの手紙1 2章4—9節

福音朗読：ヨハネによる福音書 14章1—12節

三つの信じること

1番目 2節の「あなたがたのために場所を用意しに（父のもとへ）行く」

2番目 6節の「わたしは道であり、真理であり、命である」

3番目 10節の「わたしが父の内にあり、父がわたしの内におられる」

少し、「信じる」についてこだわってみましょう。「信じる」という動詞「πιστεύω」は、新約聖書で241回使われています。共観福音書のマタイは10回、マルコ14回、ルカ9回。しかしヨハネだけは98回と多いです。特に、最後の晩餐から始まる告別説教の中では、13章で1回、14章で7回、15章は0回、16章では4回、17章で3回使われています。では特に「信じる」が多く登場する14章はどんな感じでしょう。

1a節「あなたがたは心騒がせてはなりません。神を信じ（なさい）。」

1b節「あなたがたは心騒がせてはなりません。・・・またわたしを信じなさい。」

10節「わたしが父にあり、父がわたしにおられることを、あなたがたは信じないのですか。」

11a節「わたしが父にあり、父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい。」

11b節「さもなければ、わざによって信じなさい。」

12節「わたしを信じる者は、わたしの行なうわざを行ない」

29節「今わたしは、そのことの起こる前にあなたがたに話しました。それが起こったときに、あなたがたが信じるためです。」

また、「知る」、「見る」、「聞く」といった知覚動詞も14章にはたくさん登場します。

「知る」(ギノースコオー)は、単に、^{たんに}知識的に知ることではなく、^{ちしきてき}かかわりを通して、^{おんこ}御子イエスがどのような方であるを^{ふか}深く味わい知るといことです。

「見る」(ホラオー)も、単に目で見ただけでなく、^{ちてき}知的に見る、^{みと}認める、^{りかい}理解する、^{わか}分かる、^{けいけん}味わう、^{けいけん}経験する、^{にあずかる}、を意味します。

「聞く」(アクーオー)という用語は14章には直接は出てきませんが、弟子たちがイエスが「言う」ことばを、^{とうぜん}当然、^き聞いているわけです。この「聞く」も、単に耳で聞くだけでなく、^き理解する、^き聞き従う、^{かたむ}耳を傾ける、^{かたむ}聞き取る、^{かたむ}理解する、という意味です。

つまり、「信じる」はやみくもに信じるのではなく、「知って信じる」、「見て信じる」、「聞いて信じる」といったように、^{ともな}知覚のおこないを伴うこととなります。弟子たちは、「知る、見る、聞く」ことでイエスさまを信じていったのです。



マリア祭のお知らせ

五月晴れの中、グラウンドで野外ミサをしましょう。

日時：5月21日 午前10時半

ミサ後、お弁当の販売があります。
ピクニック気分で、皆で楽しく過ごしましょう。

なお、その日は、
8時半と9時半のミサはありません。
ご注意ください。

